

令和5年度
学校だより

みずほ 瑞穂

札幌市立稲穂中学校
第3号
令和5年6月9日発行

学校教育目標 知性あふれ 逞しく生き抜く 心豊かな生徒の育成

旅行的行事を終えて [Part 1]

今年度の修学旅行は天候に恵まれ、訪れた先々で楽しい思い出をたくさん作ることができたようです。また、3日間を通して、生徒の皆さんの健康状態も良かったことが何よりでした。

修学旅行を終えて

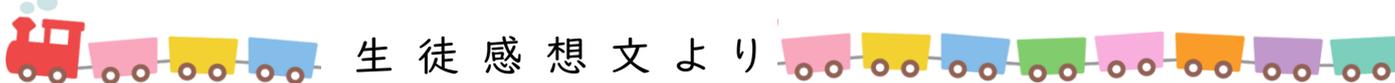
3 学年代表

この度、3学年は5月22日から24日にかけて、JRと新幹線に乗り、岩手県へと修学旅行に行ってきました。この3年間、どんな時も感染症に悩まされていましたが、5月8日から制限も緩和され、実に4年ぶりに従来通りの行事となりました。

初日は、三陸海岸にある宮古市の田老地区を訪れました。東日本大震災から12年が経ちましたが、震災を風化させぬよう、津波の被害を受けたホテルが「震災遺構」として被災した状態のまま残されています。ここでは、ホテルの方が避難しながら撮影した津波のビデオを、実際に避難した最上階の部屋で視聴しました。ここでしかできない体験をして、生徒は自分の命は自分で守ること、そのためには備えが大切であることを深く学びました。帰校後の事後学習では、早速学びを日常に生かそうとする3年生の姿が見られました。

行きの移動時間やホテルの交流時間ではトランプなどで普段あまり交流のない人とも交流をし、笑顔が絶えませんでした。夜は美味しい料理と温かい布団で初日の移動の疲れを癒やしました。2日目はコース別研修からスタートです。岩手出身の文豪宮沢賢治ゆかりの地を巡りながら、わんこそばを味わうコースと、名勝日本百景の一つ「狛鼻溪」の景色を、川下りしながらのんびり楽しむコースに分かれました。岩手県の魅力に溢れる各コースの中で、それぞれが文化に触れ、見聞を広げました。また、本研修では、学級の垣根を越えて行うことで、楽しい思い出をより色濃いものにすることができました。各コースが合流した後は、世界遺産となっている平泉地区の中尊寺を訪れました。社会科の教科書に登場する建造物や、北海道ではなかなか味わうことのできない歴史の足跡に触れ、皆感動していました。そして迎えた最終日、盛岡手づくり村で岩手の郷土作品体験を行った後、お世話になったガイドさんと運転手さんに別れを告げて新幹線に乗り込み、あっという間の3日間の旅を終えました。

生徒たちは無事に旅行をすることができたこの日常に感謝をし、学びを深めていました。学校での姿を見ると、前より成長して戻ってきたように感じます。保護者の皆様、旅行業者や岩手の方々のおかげで、無事に修学旅行を実施できたことに、深い喜びと感謝を申し上げます。今後、この旅での学びを生かし、個としても、集団としても、更に力を伸ばし、進路実現という中学校生活最大の目標に向かい、一人一人が力強く逞しく歩むことを期待します。



生徒感想文より

3年1組

私は修学旅行から、挨拶の大切さや時間を把握することの大切さを改めて知ることができました。

1日目は「お願いします」などの挨拶を忘れることがあったけれど、2日目以降はちゃんと大きな声で挨拶やお礼をすることができていたと思います。

修学旅行で一番思い出に残っているのは、コース別研修で訪れた狛鼻溪です。狛鼻溪では舟下りや運玉投げをしたり、鯉や魚にえさやりをしたりしました。特に印象に残っているのは、船頭の方のお話です。色々なおもしろい話や歌を聞かせてくださり、とても楽しかったです。

これからの学校生活では、時間を意識して行動していきたいです。中尊寺金色堂で、時間ギリギリに集合してしまったので、5分前行動を常に心がけ、外に出る際は腕時計をするなど、何が必要なのか考えて過ごしていきたいと思いました。

3年2組

1日目の災害学習では、一人一人の意識や声かけなどによって、助かる命もたくさんあるということがわかりました。他にも、防潮堤などがあるからといって安心しきらずに、「もしの場合」を考えて行動した方がいいんだなと思いました。なので、地震が起こった時などは、「海から遠いから大丈夫!」や、「みんな避難しないから!」などではなく、「もしの場合」を考えようと思います。

そして、2日目の狛鼻溪では、たくさんの自然が感じられる中での川下りでした。他にも、とても大きくて高い岩には、男の人の顔が自然とできていておもしろかったです。中尊寺金色堂は、歴史がたくさん詰まったところで、どのようにして作られたのかを学ぶことができました。

3日目は、「盛岡手づくり村」で竹を編んで竹かごを作りました。場所が昔の家の構造で、中に入る時とてもワクワクしました。初めて入ってみたときは、「昔の家ってこんな感じだったんだなあ」と思いました。そして、いざ作ってみると、「昔もこんな風にいろんなものを作ったんだな」と実感することができました。

修学旅行の思い出を日常生活に活かして、これからがんばりたいです。

3年3組

修学旅行を通して、たくさんの思い出ができました。1日目のたろう観光ホテルのDVDでは、津波の恐ろしさと怖さを改めて実感しました。防潮堤が高ければ高いほど良いと思っていました。しかし、高すぎると波が見えず避難が遅れてしまい、救える命が救えなくなると知りました。自分の命をまず守れるようになることと、周りの命も守れる人になろうと思いました。また、周りの人が何かをしているから自分も同じようにしようと集団的意識が高いと、皆で亡くなってしまうこともあると聞き、自分だったらどうするのかを考えて行動しようと改めました。学んだ怖さを生かせるよう、学校の避難訓練や集団下校などでは、「実際に災害が起きたら」と緊張感をもち、一つの行動に意味を持ちたいと感じました。

2日目のわんこそば体験では、初めてのわんこそばでたくさん食べられるか不安がありましたが、伝統を伝えていく大切さを実感できました。3日目の手づくり村でも、伝統を守り受け継ぐ大切さと人と人のつながりを、もの作りを通して気付くことができました。

班での活動や協力など、今まで話したことがない人と交流できる機会があって、仲が深まったと思います。これからの学校生活で仲が良くなった人とももっと深められるようにしたり、学んだことを生かしたりして視野を広げていきたいです。修学旅行では人との関わりがあり、自分の考えを深めることができました。卒業まで勉強だけでなく、今まで話をしてこなかった人とも触れ合いながら学校生活をより良いものにしていきたいと改めて思いました。



3年5組

1日目の特急北斗で、私は景色を眺め、普段見ない自然がこんなにも美しいものだということに思わず脱帽してしまいました。また、震災学習にて、私は今は亡き先人から教わりました。自然災害のこわさを知ること、教えることが大切なんだと。あの時見た情景を繰り返さないように。さらに、浄土ヶ浜パークホテルで私が一番驚いたのは食事の豪華さでした。正直、事前に調べていた浄土ヶ浜パークホテルの値段を見て「この安さならどんな飯が来たものか」とあまり期待してなかったのですがいざ食事会場に来てみると、そこには絢爛豪華な食物の数があり、思わず目を奪われてしまいました。

2日目の狛鼻溪で私は、時が成すこの世界の神秘を目撃しました。私の狛鼻溪のイメージは舟下りが9割だったのですが、狛鼻溪に来てみたら吃驚しました。透き通った水、辺り一面の石灰岩、これまでのイメージが覆されました。中尊寺で私は歴史を知ることの面白さを知りました。中尊寺に残る金色堂をはじめとしたさまざまな遺物や遺跡を見て、先人たちは何をしていたか、何を考えていたのかを知ることで初めて見えてくるものがあるんだなと思いました。

やっぱり旅はいいものだと思います。

